

蒼生

そう せい

1 2021年
月号

年頭の挨拶

院長 森本正博



2020年の新型コロナウイルス感染症による世界的なパンニックはこの先世代を超えて語り継がれていくほど世の中を大きく変えてしまった。

経時的に一年を振り返ると、1月には国内で初の感染者を確認、2月には感染が確認されたクルーズ船が横浜港に入港、また国内で初めて乗客の感染者の死亡が確認された。3月には全国のすべての小中高等学校の臨時休業の要請がなされ、東京都知事が都市封鎖につき言及、東京オリンピック・パラリンピックの延期の発表がなされた。4月に入り政府は緊急事態宣言発令、5月にはその解除を行った。社会経済の停滞を解消するため7月にGOTOキャンペーン開始、そ

の後11月以降新型コロナウイルス感染症は第3波の流行をきたし感染拡大が進んでいる。大都市のみならず地方においても飲食、事業所、家庭内、学校においてクラスターの発生が多発している。これらの出来事を

経て人々は感染を恐れ、感染地域への移動、または感染地域からの移動を嫌い、3密（密閉・密集・密接）を避けるようになって行動様式も激変した。国内の経済に目を向けるととてもショッキングなデータが示された。2020年4月6月期の国内総生産（GDP）は年率換算で27.8%減り、これはリーマンショック後の2009年1月～3月期の年率17.8%減を超える戦後最大の落ち込みとなった。現在、欧米では新型コロナ

ウイルスに対するワクチン接種が始まったばかりではあるが、新型コロナウイルス感染症が収束されるという見通しが立ったわけではない。我が国においても感染の拡大により大都市のみならず地方においても医療崩壊が進んできている。経済活動がある程度維持しながら、新型コロナ感染症を

コントロールするには有効な抗ウイルス剤の開発・導入とワクチン接種を迅速に進める必要がある。2021年にはこれらの対策が順調に進み、新しい生活様式が確立され、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることを世界中の人々と共に祈るばかりである。

新型コロナウイルスによって世界中の人の生活習慣

の中で交流制限が生じてしまった。

これからの2021年は制限された中で新たなコミュニケーションを確立していかなくてはならない。医療においても更なる感染対策はもちろん、予防医学に対して積極的な取り組みが必要と思われる。我々も皆さんと共にコロナ後に向けて更なる挑戦を続けていきたい。



前回は刑事示談交渉の概要と加害者側の視点に立った時の示談の効果についてお話ししました。今回は被害者側の視点から見た場合の話です。

加害者の方から示談の提案が出てきた場合（警察経由で

「加害者が示談したいと言っているがどうする？」と言われることが多いです）、被害者には「示談交渉自体を拒否する」「とりあえず話を聞いてみる」という選択肢が与えられます。

お金などほしくない、厳罰に処してくれればよい、たとえ弁護士であっても加害者側の人間と話をするのは嫌だ、ということであれば前者を選択することになります。この場合はそれで終わりです。

一方、後者を選択した場合は加害者側の話を聞いて、加害者側から支払ってもらう金額をいくにするか、接近禁

止等の条件を条項に加えてもらうかといった選択肢がさらに生まれることとなります。

個人的にはこの「選択肢が生まれること」にはそれなりに価値があると考えています。絶対に示談はしないと結論が決まっているなら

～プロムナード～ 刑事示談交渉について②

士道法律事務所 弁護士 飯島充士

交渉は時間の無駄ですが、そうでなければ話をして加害者の考えや今後の対応を聞くことによつて被害者の中で事件に一区切りつけられる可能性が出てくるからです。

また、犯罪に巻き込まれた人には何らかの被害が生じているはずですが、これを起訴前の示談交渉以外の方法で回復するのは困難です。加害者からの示談の申出を断った場合、被害回復を図るには民事上の損害賠償請求訴訟を提起するしかありません。そこでは被害者が積極的に被害の内容や経緯

を法的に主張立証せねばならず、仮に勝訴判決を得ても強制執行をかけるには加害者の財産を具体的に特定する必要があるとします。リスクやコストを考えるとこれはあまり現実的な手段とは言えないのです。

状況の有利不利もあります。起訴されるか否か、どのような刑罰となるかが不確定の状態というのは加害者にとつて時間的・精神的に不利な状況です。つまり、この時期であれば被害者に有利な条件で交渉を進め、さほどの労力をかけることなく相応の示談金を受け取ることができるようになります。私の実感として、示談の申し入れをすると9割以上の被害者は話を聞いてくれて、話を聞いてもらえば95%ほどの割合で示談が成立しています。次回は刑事示談交渉の中に触れてみます。

療養病棟実習

福山市医師会看護専門学校
第一看護学科 渡部 汐音

今回の楠本病院での実習では、療養されている患者様を受け持たせて頂きました。

この実習の中で患者様の足の爪を切るために足浴をベッド上で行う予定でしたが、この日は天気がよかったので、理学療法士の方に補助して頂いてベッドから車椅子に移乗してもらい、外を眺めながら足浴を行いました。すると患者様の体がリラックスし表情が穏やかになり、お顔も微笑んでいるように見えました。このとき患者様の言葉を聞くことは出来なかったのですが、いつも眉間にしわを寄せておられる表情が変化したのがわかりました。車いすに乗ることで、いつも見ているベッドからの景色が変わるだけでなく気分転換になるのだなと感じました。また、患者様には認知症が

ありコミュニケーションが取りにくい状態でした。そこで挨拶や声掛けを頻繁に行い、手を握るなどタッチングを続けることで少しずつコミュニケーションが取れるようになり最終日には「おはよう」という言葉を聞くことが出来ました。

私は、この実習でコミュニケーションとは言葉だけではないことを学びました。人と関わることはその人の気持ちを尊重することです。自分の働きかけがどう作用するのか、表情や行動をよく見て相手を知ることが大切だと思います。その方の持てる力を引き出すには相手を思いよく看ることが、看護だと思います。今回の実習での貴重な体験を大切にこれからの看護の道に繋げたいと思います。患者様、ご家族の皆様、楠本病院の皆様、本当にありがとうございました。

くちなし会について

(私がお招きした講師1)

名誉院長

飯島崇史

この会は昭和49年夏、広島県医師会医療事故委員会に所属していた福山市医師会のメンバー数人が広島からの帰り、医療事故対策に疲れ、「医療以外の話を聞いて見識を高めたい」という話で盛り上がり、同年8月17日、小池謹爾、藤井紫郎、鍋島光雄、高亀寛、長亨、大日方一政(敬称略)が集い、準備委員会を開いて発足した。会員は良識のある人とし、医師会内部の政治的行為に利用すべからずという趣旨を盛り込み、毎月一回講師を招き、講演拝聴後ともに会食懇談するとした。会は「くちなし会」と命名し、綱領を定めた葉には「くちなしの花は夏に咲く花。バラ、サツキなど華美を誇りし春の花

も早く会が開催できるようにとの願いをこめて、私が幹事、会長として御招きした講師のかたがたのご紹介と、其の後のご活躍などを記しておきたい。

平成20年10月「コラム書きの泣き笑い」竹内政明 読売新聞論説委員 読売新聞1面コラム「編集手帳」を14年近く書き続け、短歌、俳句などを借用する文章の構成に私は大きな影響を受けた。講演当日の朝、本社ビルに立ち寄った際、大事件のニュースが入ったようで皆がばたばたしており、用意していた翌朝の原稿を取りやめ、福山に向かう新幹線内で急遽関連の原稿を仕上げて電送。事なきを得たと苦笑しておられた。無駄をそぎ落とした文体は素晴らしいが、「しゃべるのは苦手です。」という通り、決して能弁ではないが、訥々と話す姿勢は好感が持てる。2015年9月5日脳梗塞を起こし入院。直ちに専門医による抗凝固療法を受け、麻痺を残さず治癒となった。一か月ほど休んだのち復帰。後遺症をひとつ挙げるとすれば、人の情けが身に沁みすぎて気持ちが妙に優しくなったことぐらいです。と後に述べている。

平成20年11月「絵巻を愉しむ」若杉準治 京都国立博物館管理室長 大宰府の九州国立博物館を訪れた際、国宝大絵巻展を見た。京都国立博物館が所蔵、寄託を受けている一遍聖絵、病草紙、真如堂縁起などの国宝、文化財を初めて目にした。日本が誇る絵画と物語の総合芸術ともいうべきもので、図録の解説文を書いていた若杉先生を京都に訪ね講演依頼をしたところ快諾していただいた。

平成21年1月「本能とクマログラス」などと助け船を出している。このよう

について「日高敏隆 京都大学名誉教授動物行動学者 ローレンツの「ソロモンの指輪」という動物行動学の入門書を翻訳して日本に紹介したこの分野での第一人者。多くの著書があり、非常に読みやすく以前から愛読していた。手紙と電話で講演依頼をして本人の了解を得ていたが、直前になっても連絡がない。確認の電話を入れると奥さんが出て、最近認知症が進み講演はすべて断っているとのこと。今更中止にもできず困

い私が同伴してもいいですか」と奥さん。やはり当日講演途中で言葉が続かず、しばしば途切れた。私は著書はかなり読んでいたので次に何を言おうとしているかわかるのだが。奥さんも最前列に陣取り「それはクマログラス」などと助け船を出している。このよう

なこともあろうかと数年前 NHK 京都放送局が作成した日高先生の生い立ちから現在に至るドキュメンタリーDVDを持ってきておられたので、それを上映して講演に代えた。奥さんはたいていそう恐縮して今までで最悪の講演でした。会員の皆さんに申し訳ないと。その後肺炎をこじらせて京大病院に入院されたが、お亡くなりになったと連絡があった。しかし、奥さん（喜久子）と荊妻は意気投合していまだに親しくお付き合いをさせてもらっている。我が家に泊り、鞆の鯛網に出かけたり、京都のおうちに荊妻が招かれたり。また、彼女のお友達（画家安野光雅、日本画家上村敦之（上村松園の孫）、ジャズピアニスト山下洋輔、作家谷川俊太郎、建築家安藤忠雄）などに荊妻は引き合わせてもらったりしている。京都

宝ヶ池のプリンスホテルを借り切って行われたお別れ会では、全国の動物行動学者など教え子が集まり、喜久子さん母娘はお客への対応が忙しく、頼まれて私が親族のように孫の朝日君を抱いていた。

平成21年2月 「身近な植物の不思議な生き方」稲垣栄洋 静岡県農林試験研究所 この本も読みやすく三上 修氏のデッサンも素晴らしい。植物が専門と見えていたら、最近書店で見つけた「生き物の死にざま」という動物のエッセイ集が素晴らしかった。人に嫌われるアカイエカのメスも子孫を残すため必死の覚悟で危険を冒して血を吸うのだと教えてくれている。著者の肩書は静岡大学大学院農学研究科教授となっていた。

平成21年3月 「頼山陽と福山藩」見延典子 歴史

小説家 新田次郎賞受賞 広島在住の女流作家。頼山陽に関する著作が多いが、NHK大河ドラマで平清盛を放映していた時は、テレビによく出演解説をしていた。「怒る清盛」「平家物語」「愛と滅亡のドラマ、幕末の儒者関藤藤蔭を描いた「敗れざる幕末」、頼山陽と戦争国家」など多数上梓。

平成21年4月「絵図を読む楽しみ」倉地克直 岡山大学文学部教授 行基図、備前国図、坤輿（こんよ）万国図（マテオ・リッチ）の輸入と世界図屏風、正保日本図など

平成21年7月「ブラハの春」春江一也 作家、元外交官 新しく本を上梓するたび送ってくれていたがお亡くなりになった。詳細は「忘れえぬ人 春江一也を偲んで」と題して当院広報誌に掲載した。2016年

7月号参照

平成21年9月「山伏、山岳信仰の話」菅谷文則 檀原考古学研究所所長 シルクロードなどの発掘調査研究が専門だが、山伏の資格を持ち、山岳信仰に造詣が深いとの情報があり、山伏の話が聞きたいと申し入れた。後から考え失礼な申し出をしたと反省した次第である。次回講演してもらう谷一尚氏のスライド（シルクロード発掘調査）に現場の指揮を執っている菅谷氏の姿が映っていた。

平成22年2月「安らぎのタバー ヴァアディム・チジク ヴァイオリニスト；パリ市立音楽院教授、パガニーニコンクール3位、チャイコフスキーコンクール入賞など。モスクワ生まれ。フランス国籍を取得し。岡山出身の女性ピアニストと結婚。里帰り演奏会の合間に当会で演奏をお願いしたも

の。目の前で世界一流の演奏に触れる機会に恵まれ、身の震える思いであった。パガニーニのカンタービレ。ラヴェル ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 遺作 特別に演奏依頼したバツハのシヤコンヌなどヨーロッパ貴族のサロンの雰囲気味わうことができた。その後彼はフランスで芸術部門の年金資格を取得できたとのこと。また日本のヴァイオリン専門誌「ストリング」に新しい弓の運び方技術の考察を投稿したりしている。

以上が幹事の時に私がお招きした方々である。いずれも初対面の方ばかりだが期待にたがわず素晴らしい講演に触れることができた。またその後も個人的に付き合うことが出来、私にとって貴重な財産となった。会長の時代に残り半分は次回に紹介したい。

広報誌蒼生20周年を振り返って 広報委員

二〇〇一年四月号より広報誌「蒼生」の発行を開始して、この度の二〇二一年一月号で丸20年になります。発行当初より当院の広報誌は手作りで、記事の内容はもちろん構成から印刷まで院内で行っています。このため内容も医療に特化したものではなく、読み物として患者様、職員共に楽しみにして頂けるよう努力してきました。

と、ここまでの出だしは「10周年を振り返って」をそのまま転用しました。(コピペです笑) このように発行当初から広報誌に対する情熱は変わることなく制作しております。

広報誌を発行し始めた20年前、楠本病院には療養病棟が新設され在宅支援として、デイケア、訪問看護、

居宅介護支援事業所、今はありませんが在宅介護支援センターを開設、本館5階を改装して理学療法室、透析室



の拡張が行われました。この頃の消防訓練の模様を少しのぞいてみたいと思います。

います。

今と同じく3階病棟から火災発生放送を行うのは20年前の惣木師長さんです。

この日は消防署からはしご車も出動し実際に救助訓練も行いました。訓練を指揮したのは西竹事務部長(当時)です。

次の写真は今と変わらないう会議室での勉強会、説明会の写真です。上の写真は初めて機能評価を受審する際に行った説明会、下の写真は手洗いの勉強会です。看護師さんはナースキャツ



プで今のようなパンツスタイルの方は少なかったように思います。会議室では今も昔も変わらず、新しい技術と知識の習得に務め良質の医療を患者様に提供できるように勉強しております。

他にも忘年会や職員旅行、療養病棟で行われるレクレーションなど現在は自粛されていますが、広報誌発行20年の間にはたくさん紹介されています。次回30年の冒頭も変わらないご挨拶が出来るよう今後も広報誌「蒼生」をお届け致します。



認知症について 看護師 森田

新年あけましておめでとうございます。

ここ数年特に1年が早く感じます。夏のころに「この感じだとすぐ正月が来るわー」と思っていたらもう1月・・・。楠本病院に入職した時には部署で一番若かったのですが、その座を譲り続けてウン十年、最近の私は、膝の痛みと血圧の値が気になります。

「前はもつとテンポよく、要領よくできていたのになあ」と能力の衰えを感じることもしばしばありました。が、少しのんびりしている位のほうが認知症患者さんのペースには合っているようです。今年も、患者さんの笑顔を目指していききたいと思います。

今日は、認知症を少し別の角度から捉え、嫌なこと

ばかりじゃないよ、という本をご紹介します。

「認知症ポジティブ！脳科学でひもとく 笑顔の暮らしとケアのコツ」 山口晴保 著

この方は認知症ケアの第一線で活躍されている群馬大学の名誉教授です。

認知症になると色々忘れませんが、忘れるのは良いことです。何でも覚えていればよいというのではなく、どうでもいいことは忘れたほうが良い。それと、嫌なことはすぐ忘れたほうがよい。年を重ねると老人力が付く、忘れる力が伸びるのです。少しくらい忘れてもちようどよい生活を送ればよいのです。ここで大切なのは、周囲の人が本人の物忘れや失敗を指摘しないことです。そうすれば認知症になっ

てもハッピーな気持ちで過ごせるのです。認知症になるには、ほかの病気で死んではいけません。長生きの勲章、認知症になれるまで長生き出来てよかったと捉えたいのです。戦争で亡くなった人、がんや脳卒中で長生きできなかった人は認知症になれません。幸福になる4因子は①自分が好きで②他人の目は気にしないで③やりたいことをやり④周囲に感謝する、です。認知症ケアの理念は「あなたは私の大切な人です」という思いを相手に与え続け、それを相手が理解すること、これは、会社でも家庭でも役立つ幸せな生き方のコツです。

物事には二面性があり、ネガティブなことばかりではなく、ポジティブな面にも、そしてポジティブ感情を育てよう、ということ

確かに、認知症介護は大変です。生活に障害が出てくるとそれなりの大変さは避けて通れませんが、ご本人、家族がポジティブに過ごせていると心理的な介護負担はずっと軽くなるはずです。

ここで例題！

○認知症の人にお煎餅とお茶をお出ししたら、お煎餅をお茶の中に入れてしまいました。どのように声をかけるとポジティブでしょう。

「あつ！何してるの？ダメじゃない」と声をかける人は残念ながら不合格です。

「あら、新しい食べ方ですね」「柔らかくなつて食べやすそう」と言えた人は、認知症の方も穏やかに過ごせるでしょう。



蒼生 (2021年1月号)

発行 福山市曙町3丁目19番18号
医療法人蒼生会楠本病院
TEL (084) 954-3030
FAX (084) 954-9085
発行人 名誉院長 飯島崇史
発行日 2021年1月1日

理念

地域医療のニーズに応え住民の皆様の信頼を得る医療をめざします

基本方針

- ・急性期から慢性期さらには在宅支援まで含めた幅広い医療を提供いたします
- ・患者さんの安全を最優先に考える医療を行います
- ・新しい技術と知識の習得に努め、良質の医療を提供できるよう努力します
- ・快適な療養環境づくりをめざします